



# ほけんだより9月

令和5年9月5日  
荒川区立汐入こども園  
園長 天野 英幸  
看護師 大熊 トシ子

## 【子どもを事故から守りましょう】



9月9日は「救急の日」です。

ご家庭に救急箱はありますか？子どもがケガをしたり具合が悪くなった時に、すぐに使えるよう準備点検をしておきましょう。

子どもの事故は、年齢によってケガの理由や経緯が変わります。乳幼児期は、成長が著しく日々出来ることも増えていきますが、けがも最も多い時期です。子どもの発達段階を知り、現在どの位のことが出来るか、どんなことに興味があるのかを知り、子どもを大きなケガから守りましょう。

年齢	発達のみやす	多い事故
生後6か月～1歳頃	<ul style="list-style-type: none"> <li>寝返り、ハイハイができる。</li> <li>身近にあるものを触ったり口に入れる。</li> </ul>	窒息・誤飲
1歳～2歳頃	<ul style="list-style-type: none"> <li>歩き始めから、歩く、走る、跳ぶなどの基本的な運動機能が発達してくる。</li> <li>手が自由に使えるようになる。</li> </ul>	椅子や階段からの転落 火傷 ドアなどに指挟み
3歳～5歳頃	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な運動動作が一通りできるようになる。</li> <li>全身を巧みに使いながら様々な遊びに挑戦する。</li> </ul>	遊具（すべり台等）からの転落 道路への飛び出し

### 打撲したとき

#### 頭の打撲の場合: ~意識を確認、その後3日ほどは注意深く観察を！

- 傷口から出血している時は、傷口をガーゼで圧迫し、安静にして様子を見る。
- 意識がない、出血がひどい、繰り返し嘔吐がある時には、救急車を呼ぶ。
- 顔色が悪く元気がない、ぼんやりしているなどの時はかかりつけ医に相談する。
- 意識があっても元気な時でも、1～2時間は安静にして様子を見る。
- こぶができた程度なら、安静にして冷たいタオル等で冷やす。

#### 身体の打撲の場合:

- 腕や足などを打った時は、冷たいタオルなどで冷やす。
- 痛みや腫れがだんだんひどくなってきた時は受診する。
- おなかを強く打った時は、衣類を緩めて、安静にして、病院を受診する。



### 出血したとき

- 感染防止のため傷を水で洗う。
- 傷口の深さと大きさを確認して清潔なガーゼなどを当てて止血する。
- 出血が続く時は、心臓より高い位置にした状態で圧迫止血しながら受診する。
- 血が止まったか見たりガーゼを外したりしない。
- 止血する人は、ビニール手袋やビニール袋を使用することが望ましい



## 【かゆみの強い湿疹はとびひかも...】



虫刺されや湿疹、擦り傷などを汚れた手で触ったり掻いたりすると、細菌が付き化膿します。その触った手で体の他の所を触ると湿疹がどんどん広がることがあります。(鼻の周りや脇の下、膝の裏にできやすい)患部を清潔にしガーゼなどで覆い、治りが悪いときは受診しましょう。とびひは、伝染性膿痂疹といい登園証明書が必要です。